

目標達成計画

作成日: 平成 27年 5月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議と職場の一体感が乏しく、それぞれが独立して運営されている。運営推進会議について現場職員は、「あそこで会議が開かれている」といった感覚であり、現場での会議の効果的な活用までには至っていない。	地域、関係職種、利用者、家族、職員、すべてをつなぐ会議として発展させる。	○運営推進会議の資料や議事録を開示し、現場職員が意識してみるようにする。 ○スタッフ会議の議題に位置づけ、議事録(会議内容)に対する意見や質問を出し合う。 ○運営推進会議に、職員からの意見や要望を組み入れる。	10ヶ月
2	35	職員一人一人の中に、有事の際の行動基準が確立されておらず、行事としての避難訓練という認識が強い。心構えも含め、実際の避難の風景を各々が想像しながら訓練に取り組めるようにしたい。	有事の際の心構えや行動基準を各自が認識し、実際の災害の場合には混乱することなく避難できるよう、ハード、ソフト両面での対策を行う。	○学習会や訓練を通して、自分がどう動くべきなのかを把握する。 ○各種災害に対応できるよう、平時の準備をおこなっておく。 ○マニュアルを見直して整備し、各自が自分の動きを確認できるようにする。	6ヶ月
3	1	法人理念、事業所理念を掲げているが、文言の暗記にとどまっている。理念の言葉の意味を考え、自分なりに解釈し、実践するまでには至っていない。	法人理念、事業所理念を、言葉ではなく意味で理解し、自分なりの解釈の下、理念に沿った介護の実践に取り組む。	○スタッフ会議の議題に少しずつ取り上げ、意味を話し合い、短期間ごとの重点目標として共通認識を行う。 ○日常で起こり得る、理念に合致しない行動について例を上げて話し合い、各々が具体的に行動できるようにする。	12ヶ月
4	33	職員間では、終末期や最期を迎える瞬間の介護については概念的に理解しているが、職業として一定の品質の看取りを提供するまでには至っていない。	職員全員が看取りについて学習し、介護職としてできる最高のサービスを提供するための資質を養う。	○スタッフ会議で看取りについて取り上げ、それぞれが観念的に持っている看取りについての考えを統一する。 ○看取り期についてのマニュアルを整備し、各自が十分把握する。 ○死生観について学習する機会を設ける。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。